

大石芳野 講演会

「チェルノブイリと福島」

1986年4月に爆発したチェルノブイリ（チェルノブイリ）を初めて訪れたのは4年後だった。30km圏内の許される範囲まで近づくと、4号炉は無惨な姿をさらしていた。近隣の村々から人びとは退去したが、残っている人もまだ少なからずいた。キーウ（キエフ）の病院には被曝した人たちがいっぱいだった。子どもたちは見るからに顔色が悪く、白い肌がさらに白く透き通るようでさえあった。その後、何度か現地に足を踏み入れながら被曝した人たちの今なお苦しむ様子や変化、成長する人たちの姿に触れてきた。

日本では「原発事故は起こらない」と多くの人たちが強調していた。けれど、2011年3月、私たちは東電福島第一原発の爆発を目の当たりにした。13年経つが、汚染水の問題や廃炉の問題など、先が明るくならない状態が続いている。不安を抱かずにはいられない。福島の人たちはいかばかりだろうか。

大石芳野



左：2012年11月 福島県川俣町

右：2017年9月 ベラルーシ「ナデジダ」 撮影：大石芳野

2024年

6月1日（土）13：00～15：00

◆開催方法：オンライン ◆定員300名

◆参加無料（寄付つきチケットもご用意しております。ご寄付はチェルノブイリ子ども基金の救援活動に充てさせていただきます。）

◆申込締切 6月1日（土）開催直前まで

◆申込先：<https://ccfj-event.peatix.com/>

- 会場参加申込先：chernobyl1986@jcom.zaq.ne.jp
- 定員50名（先着順） ●参加費500円
- 会場：パルシステム東京 新宿本部7F会議室
- 【最寄駅】都営大江戸線・東京メトロ副都心線「東新宿駅」B3出口から徒歩5分



大石芳野（おおishi よしの）

報道写真家。世界平和アピール七人委員会委員。日本ペンクラブ会員。土門拳賞、エイボン女性大賞などを受賞。



- ◆講演 大石芳野
- ◆支援活動の報告 佐々木真理（チェルノブイリ子ども基金 事務局長）
- ◆お話 斉藤とも子（女優）

～原爆小頭症の方々のこと、福島との関りについて～

- ◆トークセッション 大石芳野 & 斉藤とも子



問合せ先 ● chernobyl1986@jcom.zaq.ne.jp

主催 ● チェルノブイリ子ども基金

協賛 ● 未来の福島こども基金

後援 ● 生活協同組合パルシステム東京

大石芳野

東京生まれ。報道写真家。世界平和アピール七人委員会委員。日本ペンクラブ会員。日本大学芸術学部写真学科卒業後、ドキュメンタリー写真に携わり、以後、戦争や内乱などで傷ついた人々の姿を捉え続けている。土門拳賞（『ベトナム 凜と』）、エイボン女性大賞、紫綬褒章などを受賞。写真集に『戦禍の記憶』『長崎の痕』など多数。近著にエッセイ『わたしの心のレンズ』。

齊藤とも子

女優。兵庫県出身。1976年デビュー。テレビ、映画、舞台などに出演。主な作品は「ゆうひが丘の総理大臣」「男たちの旅路・車輪の一步」「若い広場～マイブックコーナー」、映画「ひめゆりの塔」など。1999年、井上ひさし作・舞台「父と暮せば」の出演で被爆者と出会い、原爆小頭症家族の「きのこ会」ともつながる。数年前から、福島原発被災者とも縁を深める。著書『きのこ雲の下から、明日へ』。

佐々木真理

「チェルノブイリ子ども基金」事務局長。会社員であった1998年より子ども基金のボランティアとして、ウクライナとベラルーシの保養施設で甲状腺手術後の子どもたちに日本文化教室を開催。その後ボランティアとして毎年現地の保養施設や病気の子どものいる家族を訪問。2005年より子ども基金スタッフ、2008年より事務局長。2016年、ウクライナに多大な貢献を果たした女性として同国政府より「公妃オリガ勲章」受章。



2023年夏
チェルノブイリ子ども基金の
保養プロジェクト

左：ウクライナ・リヴィウ州
子ども保養所「ショコラード」

右：ベラルーシ・ミンスク州
子ども健康回復センター
「ナデジダ」

<チェルノブイリ子ども基金>

チェルノブイリ原発事故被災地の母親たちの呼びかけを受け、募金活動を始めたのをきっかけに、1991年4月設立。これまでに医療機器、医薬品、ミルク、教材、放射線検知器のほか、救援物資数十トンを被災地に贈っている。また、放射能汚染地区に住む子ども専用サナトリウム「希望」（ベラルーシ）に、1994年開設当初より運営費・保養費の一部を支援、1996年7月からは毎年、チェルノブイリ事故被災地のベラルーシとウクライナの病気の子どものための保養プロジェクトを行っている。

<http://ccfj.la.coocan.jp/>

〒171-0041 東京都練馬区石神井町3-16-15-408
T/F : 03-6767-8808

<未来の福島こども基金>

2011年6月に「チェルノブイリ子ども基金」の姉妹団体として設立。チェルノブイリ救援の経験をいかして、福島原発事故被災児童のための救援活動を行っている。これまで、「いわき放射能市民測定室 たらちね」ほかの市民放射能測定所に食品の放射能測定機、ホールボディカウンター、各種機器を寄贈。「たらちね」が運営している「沖縄・球美の里」の保養プロジェクト、甲状腺検診、クリニック、こころのケアなども支援。2023年度より子どもたちへの学資支援と病気の子どものため応援金支援を始めた。

<http://fukushimachildrensfund.org/>

★このイベント開催のための賛同金を募集しています。

一口1,000円 郵便振替口座 00160-4-98316 口座名 チェルノブイリ子ども基金